

【 2023 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

目的：浜松磐田地区の聖隷こども園・保育園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

- ・ランチタイムを導入することで、午前中の活動だけでなく、食事の時間帯に於いても、子どもの主体的な遊びが保障されている。またそれにより、職員も共に遊び込む場面が多々見られ、子ども一人ひとりとの関係が深まっていることが感じられた。
- ・0歳児の食事の場面では、泣けてしまう子どもが保育者との1対1の関係の中で、十分に受け入れられていることが感じられた。そのような関わりの積み重ねが、保育・教育理念に繋がっていくと考えられる。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

- ・泣けてしまう0歳児の対応について、保育を進めながらも、複数の職員がその理由を様々に推測して考える場面に、チームワークを感じた。一人ひとりとの関わりに於いて、多角的な視点を活かして保育・教育に携わることは、子どもの最善の利益に繋がることと思う。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

入園時の同意書を元に、適切に扱っている。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

職員間で、報告ルートが明確化されている。また、内容に応じて、それぞれの立場（副主任など）を巻き込んで振り返りをするなど、段階を踏んで対応できているように感じられた。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

職員間の情報共有の他、保護者には、掲示板やアプリのお知らせ機能を活用して情報提供をしている。また必要に応じて、行政への報告も適切に行われている。看護師を中心として、対応、取り組みがなされていることが感じられた。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

園の策定する学校安全計画に則り、定期的な訓練の実施の他、職員向け講習を行っている。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

必要に応じて、関係他部署の応援や指導を仰いでいる。
前年度に比べると、園児の入園は増加している。職員は適正に配置はされているものの、余裕がある程ではなく、慢性的な超過勤務も発生しているため、職員の補充や業務改善が課題である。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

全体的に、整理整頓、清掃ができており、清潔感がある。玄関周辺に飾られている花（植物）も園の雰囲気をもくしている。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

環境の工夫が所々で感じられ、子どもたちも主体的に遊びを展開している。年齢に応じた玩具の整備も、子どもの様子を捉えながら行えている。

一方で、とある一場面では、年長児が郵便やさんごっこにて手紙を書く際、書く場所を選びながら、最終的に床で、色鉛筆ケースの蓋の上で書くようなことも見られた。子どもの創意工夫を認めるが、そのための環境整備をしたり、子どもへ声をかけたりということもあると良いかと思われた。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

- ・前述の0歳児の食事の場面では、職員間の連携を図りつつ、必要に応じて個々の対応をすることが、子どもに安心感を与え、大人の愛情を感じられる時間となっていたと思う。
- ・4,5歳児では、ランチタイムを導入する中で、食事中の子どもが、席が空くことを待つ友達にも思いを向け、席が空いたことを知らせたり、やりとりの中で、待つ子どもその思いを知り、それに寄り添う様子が見られたりと、当初の導入目的に限らず、子どもの育ちにとって良い経験が出来ていることが感じられた。

【全体を通して】

1年間を通して、法人内講師による保育の見直しが図られ、そのことを職員一人ひとりが前向きに捉えて、改善してきていることが様々な場面で感じられた。また、新たに導入されたICTシステムに於いては、業務改善のために限らず、職員の資質向上にも活用されていることが職員の個人面接からわかり、頼もしく思う。

歴史を重ねる園として、地域に受け入れられていることも感じられた。今後も、現在のチームワークを活かしながら、より良い保育・教育の実践に繋がっていくことを期待したい。

評価日 2024 年 1 月 16 日

評価者 園 名 聖隷浜松病院ひばり保育園

役 職 園長

氏 名 森下 美由紀